

歯科材料 05 歯科用接着充填材料
管理医療機器 歯科用象牙質接着材(42483002)
(歯科金属用接着材料(70921000) 歯科セラミックス用接着材料(70815000) 歯科用知覚過敏抑制材料(70926000)
歯科用シーリング・コーティング材(70860000) 歯面コーティング材(70861002))
(歯科用充填・修復材補助器具(38782000))

ジーシー G-ボンド ユニバーサル

再使用禁止：ディスポーザブルアプリケーションターII

【禁忌・禁止】

- ・メタクリレート系ポリマー、メタクリレート系モノマー、エタノールに対して発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。
- ・併用禁忌：相互作用の項参照。
- ・再使用禁止（ディスポーザブルアプリケーションターII）

【形状・構造及び原理等】

構成品	形状
G-ボンド ユニ バーサル	液体
	組成等
	リン酸エステル系モノマー、メタクリル酸 エステル、エタノール
付属品	ディスポーザブルアプリケーションターII、 ディスポーザブル採取皿

原理

- 1) 本品によって歯質を脱灰すると同時にモノマー成分が浸透し、その後、光照射することによってモノマー成分が重合し、歯質と接着する。
- 2) 粗造化した貴金属表面に対し本品が浸透し、その後、光照射することでモノマー成分が重合し、貴金属と接着する。
- 3) リン酸エステル系モノマーが非貴金属、ジルコニア、アルミナ表面と結合することで、非貴金属、ジルコニア、アルミナと接着する。
- 4) ダイヤモンドバーなどによって物理的に粗造化したポーセレン、ニケイ酸リチウムガラス、コンポジットレジン表面に本品が浸透し、その後光照射により硬化することで、ポーセレン、ニケイ酸リチウムガラス、コンポジットレジンと接着する。また、本品が浸透した際に、本品に含まれるシランカップリング材が被着体と化学的に結合し、接着に寄与する。
- 5) 知覚過敏症で露出した象牙細管内に浸透、硬化し、象牙細管内を封鎖することで知覚過敏を抑制する。
- 6) 本品によって歯質を脱灰すると同時にモノマー成分が浸透し、その後、光照射または歯科接着用レジンセメントと接触することによってモノマー成分が重合する。歯科接着用レジンセメントを用いて合着、硬化することで、本品と歯科接着用レジンセメントを介して歯質と補綴装置を接着させる。また、本品を用いてコアの前処理を行った後に、歯科接着用レジンセメントを用いて合着、硬化することによって、コアと接着する。*
- 7) 形成した窩洞や支台歯などの象牙細管に浸透、硬化し、封鎖する。
- 8) リン酸エッチングにて歯のエナメル質を改質し、空隙（穴）を作る。この空隙（穴）をエタノールで脱水・乾燥させた後、本品を適用し、光重合（硬化）させる。レジン成分が歯のエナメル質に浸潤し空隙（穴）を閉塞させ、歯表面にレジン含浸層を形成することによって、エナメル質の欠損部分からのミネラルの溶出を防止するとともに、脆弱化したエナメルをコーティングする。

【使用目的又は効果】

- 1) 歯科用光重合型コンポジットレジンと歯質との接着に用いる。
- 2) 歯科用光重合型コンポジットレジンと金属、セラミックス、コンポジットレジン製のいずれかを含む修復物との接着に用いる（修復物の補修修復）。
- 3) 歯科接着用レジンセメントと併用し、セラミックス、レジン、金属製の修復物及び装置と歯質及びコアとを接着させる際の前処理材に用いる。

- 4) う蝕リスクの高い部位や形成面、露出根面などにおける象牙質の知覚過敏抑制に用いる。
- 5) 形成面や支台歯、露出根面（実質欠損をほとんど含まない症例）などの象牙細管の封鎖、又は歯質と修復物、補綴装置等との界面の封鎖に用いる。*
- 6) 歯の表面をコーティングするために用いる。

【使用目的又は効果に関連する使用上の注意】

- 1) サホライドや知覚過敏抑制材を塗布した歯面への使用では、歯質と十分な接着力が得られない場合があるので、留意して使用すること。
- 2) 光照射（照射時間・光強度）が不十分な場合には、接着力が低下するので注意すること。また、窩洞が深い場合など照射口がボンディング材塗布面に近づけられない場合には、【使用方法等】に記載されている窩洞が深い場合を参照して光照射を行うこと。
- 3) 使用する歯科用光重合型コンポジットレジンの実用硬化深度以上の充填厚では、接着力が低下するので注意すること。

【使用方法等】

清浄な採取皿に滴下し、ディスポーザブルアプリケーションターIIで修復面に塗布します。

※本品塗布後のエアブローについて

本品は「水」を配合していないことから、各種被着体（歯質、修復物）への塗布後の乾燥無しでの処置（塗布後すぐに光照射のステップへ移行）が可能です。塗布後の窩洞・被着面に液だまりが確認できる場合や、塗布面を均一化する目的で、塗布後エアブローを行っても、性能上問題ありません。*

1. 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復

- 1) 通法に従い、窩洞形成を行います。
- 2) 水洗後、エアにより歯面を乾燥します。
- 3) 露髄部分や歯髄に著しく近接した場合には、通法に従って、水酸化カルシウム製剤などで覆髄処置を行います。
- 4) 本品をディスポーザブルアプリケーションターIIで塗り残しが無いように窩洞／被着面全体に塗布します。（エナメル質への接着を重視する症例では、歯科用エッチング材（ジーシー エッチャント等）処理、水洗、乾燥を行ってから、本品を使用することを勧めます。また、非切削エナメル質に対しては、必ず歯科用エッチング材（ジーシー エッチャント等）処理を行います。）
- 5) 歯科重合用光照射器で光照射します。

コーピー ※1	10 秒（窩洞が深い場合：20 秒以上）
G-ライト※2	5 秒（窩洞が深い場合：10 秒以上）
G-ライト プリマIIPlus※2	5 秒（F 5 モード） （窩洞が深い場合：10 秒（10 モード））
LED照射器※3	10 秒（窩洞が深い場合：20 秒以上）
スリムライト※4	5 秒（Ramp up モード） （窩洞が深い場合：10 秒（Low モード））

※1：コーピー：

ハロゲンランプを採用した歯科重合用光照射器

※2：G-ライト／G-ライト プリマIIPlus：

青色LED及び紫色LEDを採用した歯科重合用光照射器

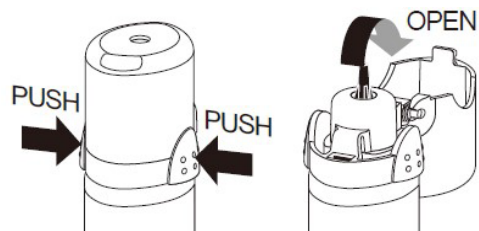
※3：LED照射器：

他社のLEDを採用した歯科重合用光照射器、460～480 nmの波長をカバーしており、光出力が450 mW/cm²以上のもの。

※4：スリムライト：

青色LED及び紫色LEDを採用した歯科重合用光照射器

- 6) 歯科用光重合型コンポジットレジンに、その使用方法に従い
充填・形成し、歯科重合用光照射器で硬化させます。
 - 7) 通法に従い、形態修正及び研磨を行います。
2. メタルボンド (金属焼付ポーセレン前装冠)、硬質レジン前装冠等の補修修復
- 1) 修復面をダイヤモンドバー等を用いて粗造化します。
 - 2) 水洗後、エアにより修復面を乾燥します。
 - 3) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて、塗り残しが無いように修復面全体に塗布します。(ポーセレン等への接着をより高めたい場合は、歯科用シランカップリング材 (ジーシー G-マルチプライマー等) 処理を行ってから、本品を使用することをお勧めします。金属や歯質を含む場合は、シランカップリング材は金属や歯質にはなるべく塗布しないでください。) *
 - 4) 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復と同様に、光照射、充填、研磨を行います。
3. オールセラミッククラウン (ジルコニア、アルミナを除く)、ハイブリッドレジンクラウン (CAD/CAM 冠を含む)、歯科充填用コンポジットレジン等の補修修復
- 1) 修復面をダイヤモンドバー等を用いて粗造化します。
 - 2) 水洗後、エアにより修復面を乾燥します。
 - 3) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて、塗り残しが無いように修復面全体に塗布します。(ポーセレン等への接着をより高めたい場合は、歯科用シランカップリング材 (ジーシー G-マルチプライマー等) 処理を行ってから、本品を使用することをお勧めします。歯質を含む場合は、シランカップリング材は歯質にはなるべく塗布しないでください。) *
 - 4) 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復と同様に、光照射、充填、研磨を行います。
4. ポーセレンジルコニア前装冠、ポーセレンアルミナ前装冠、フルジルコニアクラウン等の補修修復
- 1) 修復面をダイヤモンドバー等を用いて粗造化します。
 - 2) 水洗後、エアにより修復面を乾燥します。
 - 3) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて、塗り残しが無いように修復面全体に塗布します。(ポーセレン等への接着をより高めたい場合は、歯科用シランカップリング材 (ジーシー G-マルチプライマー等) 処理を行ってから、本品を使用することをお勧めします。ジルコニア (アルミナ) や歯質を含む場合は、シランカップリング材はジルコニア (アルミナ) や歯質にはなるべく塗布しないでください。) *
 - 4) 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復と同様に、光照射、充填、研磨を行います。
5. 知覚過敏抑制
- 1) 通法に従って歯面の清掃を行い、水洗、乾燥します。
 - 2) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて、塗り残しが無いように歯面に塗布します。
 - 3) 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復と同様に、光照射します。
 - 4) 硬化後、綿球などを用いて表面の未重合層を除去します。
6. 歯科接着用レジンセメントを用いた修復物の接着 (本品を被着体の前処理材として使い、歯科接着用レジンセメントと併用する場合)
- 1) 通法に従い、窩洞形成または支台歯の形成を行います。
 - 2) 水洗後、エアにより、被着面を乾燥します。
 - 3) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて塗り残しが無いように被着面に塗布します。
 - 4) 歯科接着用レジンセメントとしてジーシー ジーセム ユニバーサル/ジーシー ジーセム ユニバーサル カートリッジを用いる場合、本品への光照射は不要です。(光照射を行う場合、本品の塗布面の厚みが気になるケースでは、塗布後エアブローを行ってください。)
- 上記以外の歯科接着用レジンセメント (例えば、ジーシー ジーセム ONE/ジーシー ジーセム ONE EM) を用いる場合、歯科重合用光照射器で光照射します。(歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復を参照) (本品の塗布面の厚みが気になるケースでは、塗布後エアブローを行ってください。)*
- 5) 補綴装置の指示に従い、補綴装置の前処理を行います。本品を、塗り残しが無いように補綴装置被着面に塗布します。(補綴装置側の前処理材として本品を塗布する場合、本品への光照射は不要です。光照射を行う場合、本品の塗布面の厚みが気になるケースでは、塗布後エアブローを行ってください。)
 - 6) 修復物の合着を行います。
 - 7) 詳細は、併用する歯科接着用レジンセメントの電子添文に従うこと。*
7. 窩洞形成面や支台歯形成面のコーティング
- 1) 通法に従い、窩洞形成もしくは支台歯の形成を行います。
 - 2) 水洗後、エアにより、歯面を乾燥します。
 - 3) 露髄部分や歯髄に著しく近接した場合には、通法に従って、水酸化カルシウム製剤などで覆髄処置を行います。
 - 4) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて塗り残しが無いように被着歯面全体に塗布します。(エナメル質への接着を重視する症例では、歯科用エッチング材 (ジーシー エッチャント等) による処理、水洗、乾燥を行ってから、本品を使用することをお勧めします。)
 - 5) 歯科用光重合型コンポジットレジンによる充填修復と同様に、光照射します。
 - 6) 硬化後、綿球などを用いて未重合層を除去します。
 - 7) 続けて補綴装置を装着する場合は、通法に従って印象採得を行い、補綴装置を製作します。コーティング面は、仮封材や暫間被覆冠で保護します。(※レジン系仮封材を用いる場合は、本品の未重合層を綿球などで拭き取り、ワセリンを塗布するなどしてレジン同士が付かないように注意ください。)*
 - 8) 製作された補綴装置を、セメントにより合着・接着します。
8. 微小侵襲および非空洞化エナメル質の変質部位への浸潤、封鎖、コーティング
- 1) エビテックス・メタルストリップス等で処置部位のバイオフィルムを除去します。リン酸エッチング (ジーシー エッチャント等) を充分適用し、20 秒間放置します。放置後、充分に洗浄し、エアで乾燥します。(バイオフィルム除去は、歯質を削り過ぎないように注意すること。)
 - 2) 処置部位にエタノールを滴下し、30 秒放置します。放置後、エアで乾燥します。(※エタノール浸潤により、エナメル質の白濁が消失します。もし白濁が消失しない場合は、エッチング処理を 2 回又は 3 回繰り返し、再度歯を洗浄、乾燥させてください。)
 - 3) 本品を、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて塗り残しが無いように処置部位に塗布します。3 分間放置後、綿球などで余剰分を取り除きます。
 - 4) 歯科重合用光照射器で 40 秒間光照射し重合硬化させます。
 - 5) 新たに本品を採取し、ディスポーザブルアブリケーターⅡを用いて処置部位に塗布します。1 分放置し、綿球などで余剰分を取り除きます。
 - 6) 歯科重合用光照射器で 40 秒間光照射し重合硬化させます。
 - 7) 研磨用カップ等を用いて処置部位を研磨します。
- [使用方法等に関連する使用上の注意]
- 1) 冷蔵保管品を使用する場合は、取り出し後、室温に戻してから使用すること。
 - 2) ボトルのキャップを開ける際は、ボトル正面及び背面のボタンを同時に押し込むこと。(一方のボタンだけ押した場合は、キャップのロックが解除されないため、キャップが開かない)



- 3) 光硬化性樹脂であることから、塗布直前に採取皿等に採取すること。(採取後は 7 分以内に塗布すること。付属のディッシュ以外の採取皿を使用する場合は、硬化が早まる恐れがあるため注意すること。)

- 4) 万一本品を塗布後、水洗してしまったり、唾液がついてしまった場合には、再度水洗から処理を行うこと。
- 5) エアーシリンジ等を使用して歯面の乾燥及び本品塗布面のエアブローを行う場合には、事前にオイルミスト等接着阻害物質が噴射されていないことを確認してから使用すること。
- 6) エアーブローを行う場合、歯肉溝や接触点部に液溜りがなく、塗布面が均一な厚みとなるように行うこと。

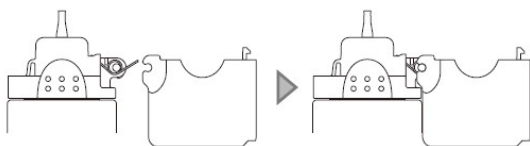
【使用上の注意】

1) 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

- ①薬剤、食品、アクセサリ、化学物質等に過敏症の既往歴がある患者には、本品及び類似品に対して過敏症歴がなくても問診を行い、慎重に適用すること。

2) 重要な基本的注意

- ①本品に対して、発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある術者は、本品を使用しないこと。また、使用により過敏症状を起したときは、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けること。
- ②本品を火気の近くで使用したり、火気の近くに置かないこと。また、テーブル、床上などにこぼしたときは、すぐに乾いた布で良く拭き取ること。
- ③本品が衣類に付着すると除去が困難なことから、エプロンなどを使用して付着を防止すること。
- ④本品の蒸気を多量に吸入すると頭痛等が発症する恐れがあるので、使用する際は適切な換気（1時間あたり数回の換気）がなされている場所で使用すること。また本品の蒸気を多量に吸入した場合は、新鮮な空気のある場所へ移動すること。
- ⑤揮発成分を含有するため、適用時は鼻呼吸するように患者に指導すること。
- ⑥本品が、口腔粘膜、皮膚などに付着しないように充分注意すること。歯肉、口唇など粘膜面に付着すると炎症（白変、水疱など）を生じることがあるため、ラバーダムを使用するなど、口腔粘膜・口唇への接触を防止すること。（ラバーダムなどで口腔粘膜・口唇への接触が防止できない部分については、ココアバターなどを塗布することをお勧めします。）口腔粘膜に付着した場合にはすぐに綿球などで拭き取り、操作終了後に十分に水洗すること。また、皮膚に付着した場合には、すぐに石鹸で洗浄すること。万一、目に入った場合には、すぐに大量の流水で洗浄した後、眼科医の診断を受けること。
- ⑦本品が患部以外の部位に付着しないように充分注意すること。歯質に厚く付着したまま重合すると除去がしにくくなるので、光照射の前に綿球で拭き取ること。また、本品が歯肉、口唇など粘膜面に付着すると炎症（白変、水疱など）を生じることがあるため、ラバーダムを使用するなど、口腔粘膜・口唇への接触を防止すること。（ラバーダムなどで口腔粘膜・口唇への接触が防止できない部分については、ココアバターなどを塗布することをお勧めします。）万一、歯肉などに付着した場合には、すぐに綿球で拭き取り、操作終了後に十分に水洗すること。炎症（白変、水疱など）が生じた場合でも、これは一過性の現象であり短期間（1～2週間）で回復することから、炎症（白変、水疱など）を起こした部位にはブラッシングなどの物理的刺激を与えないように患者へ説明を行うこと。
- ⑧本品の誤飲には充分注意すること。
- ⑨揮発成分を含むことから、使用後は速やかに密栓すること。
- ⑩ボトルのノズルに液が付着した場合、拭き取ってからキャップを装着すること。
- ⑪キャップのヒンジが外れた場合、ヒンジ軸とヒンジ軸受け部の位置を合わせてから嵌め直すこと。



- ⑫本品は無影灯の光により硬化することがあるので、無影灯下に置かないこと。
- ⑬光照射の際は、保護めがねなどを使用し、照射光を直視しないこと。

- ⑭光硬化性、接着性は歯科重合用光照射器の照射能力に依存することから、ランプの劣化、ファイバーロッドの汚れに注意すること。
- ⑮他の製品と混用しないこと。
- ⑯本品は、【使用目的又は効果】に記載の用途以外には使用しないこと。
- ⑰本品は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- ⑱本品については、試験によるMR安全性評価を実施していない。（自己認証による）

3) 相互作用

(1) [併用禁忌]（使用しないこと）

- ①ユージノール系製剤は、本品の硬化・接着を阻害する可能性があるため併用しないこと。

(2) [併用注意]（使用に注意すること）

- ①仮封材、暫間補綴装置等を使用した場合は、仮封材、仮着材が接着面に残留すると十分な接着力が得られないので、超音波スケーラー等を使用して確実に除去し、十分に洗浄すること。

4) 不具合・有害事象

[有害事象]

(1) その他の有害事象

本品の口腔粘膜などへの付着により、白変、発赤、びらん、水疱などの過敏症状が発生することがあります。

【保管方法及び有効期間等】

[保管方法]

- ・暗所で保管する（4-25℃）。
- ・一つの保管庫に大量に保管しない。
- ・使用及び保管場所には、消火装置を備える。
- ・本品は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理する。

[有効期間]

本品は、包装に記載の使用期限※までに使用する。

※（例） 2028-04 は
使用期限 2028年 4月 を示す。）

[廃棄方法]

- ・本品は引火性を有することから、使い切ってから廃棄する。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：株式会社ジーシーデンタルプロダクツ

主たる設計元：株式会社ジーシー

発売元：株式会社ジーシー

住所：〒113-0033

東京都文京区本郷3丁目2番14号

電話番号：（お客様窓口）0120-416480